

教育と文化

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 229

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

『想像する力』について

『国内での職業について、10〜20年後には、日本の労働人口の約半数が就いている仕事を人工知能やロボットなどで代替することが可能』というショッキングな記事を記憶されている人も多いことかと思えます。

AI（人工知能）技術の進歩は著しく、ゲームの中でも最も複雑である囲碁のプロ棋士を負かしてしまう能力をも獲得しています。

人間が作り出した機械（道具）が、ある面では人間の能力を超えて進化し、そこには期待と不安が入り交じっています。

あらためて、19世紀のフランスの画家ポール・ゴーギャンの絵にある「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこに行くのか」という言葉を思い出します。

人類がアフリカでチンパンジーとの共通祖先から枝分か

れたのは約700万年前とも言われていますが、今まさに改めて「人間とは？」、さらに「幸せに生きるとは何か？」ということが問われ始めているのではないのでしょうか。

チンパンジーの研究を通じて人間の心や進化的起源を探究するある研究者は、「人間を他者と区別するもつとも大きな特徴はなんだろうか。究極的にいえば、それはイマジネーション、想像する力、ではないかと思うようになっていた。」と語っています。

『想像する力』は、人権社会の源泉ではないでしょうか。将来人工知能が『心』を持つ時代が来るかもしれません。『想像する心』、さらには他者を『思いやる心』は、人間の体と同様に、進化のためのもです。

この宝物を育み、だれもが幸せに暮らせる社会を目指したいものです。

郷土の文化財

日本遺産シリーズ④

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎033186

肥前窯業が育んだ景観と暮らし

400年にわたり紡がれてきた肥前窯業の歴史や文化は、景観や暮らしの中にも今なお息づいており、礎を築いた先人の陶工たちを大切に祀り、また、窯業に関わる伝統行事が受け継がれています。

この歴史ストーリーを構成する文化財として、大川内山があります。1660年代頃に有田から御道具山が移転してきた大川内山では、現在も30の窯元が軒を連ねています。急峻な山々に囲まれた狭い谷間にトン

バイ堀やれんが造りの煙突が建ち並び、その背後に青螺山がそびえる山水画のような幽玄な風景は、『秘窯の里』としての雰囲気醸し出しています。

国史跡大川内鍋島窯跡には窯跡のほか、御細工場跡



↑大川内山の風景

や藩役宅跡、陶工屋敷跡群など古絵図にある遺構や地形が良好に残っています。また、毎年4月に江戸時代の陶工たちを祀る供養塔で無縁塔祭が行われ、11月には、焼き物の絵付けに使う筆の供養が行われます。シリーズで紹介した日本遺産『日本磁器のふるさと肥前』は、400年もの長い窯業の歴史の中で培われた伝統や技術、景観や文化などの魅力を体感できる日本随一の地域なのです。